

2011年7月25日

SAAJ NEWS RELEASE

IFRS 財団の「戦略レビュー」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：稲野和利 野村アセットマネジメント取締役会議長)は、2011年4月に公表された報告書「戦略レビュー」について意見書を作成し、7月25日(月)にIFRS財団・評議員会へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ IFRS 財団の次の10年間に向けた包括的な「戦略レビュー」を、妥当なものとして基本的に支持するが、さらに改善できる点があると考えている。「レビュー」はアドプションとコンバージェンスを2分法的に捕らえているが、より柔軟に考えるべきである。最終的に世界中の国がフル・アドプションするのが理想であるが、日本と米国という2大国のアドプションにも数年が必要であり、その先には中国とインドのアドプションが課題になる。これらの国のアドプションを容易にするとともに、そこに至までの期間においては、コンバージェンスは重要な役割を果たすものである。
- ✓ 国際会計基準審議会 (IASB) の作業計画表がたびたび後ろ倒しされ、リース・収益認識・保険・金融商品 (減損) などの大きなプロジェクトで、公開草案 (ED) の内容と最終的な基準が大きく乖離する可能性があることは、IASB の基準設定プロセスへの信頼性を揺るがす由々しき問題である。デュープロセス・ハンドブックを改め、討議資料 (DP) の前から公聴会を含むアウトリーチ活動を行い、関係者の意見を十分に聴取すべきである。DPはある程度は理念的なものであっても良いが、EDは最終的な基準に近いものとする必要がある。
- ✓ IASB のデュープロセスに問題があるということは、評議員会の監督が十分に機能してこなかったことを意味する。評議員会による監督を支援するために専任スタッフの採用を検討すべきだろう。さらに、監督機能を有効に発揮するためには、評議員の構成を見直すことも必要だろう。

【添付資料】

資料1 *re: Comments on the Report of the Trustees' Strategy Review*

資料2 「戦略レビュー」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞